

英語スピーキングの指導と評価

研究キーワード



- 小・中学校外国語教育
- 英語の授業づくり
- 話すこと [やり取り]

連携アピール



- 10年以上にわたり、県市町・小中学校主催の教員研修を200回以上担当し、授業研究の成果を活かしてきました。
- 最近では、英語のスピーキング力、とりわけ双方向で話す「やり取り」の力（対話能力）を向上させるための指導と評価について研究しています。

本研究の概要

- 指導についての研究：英語で会話をするには、話をふくらませたり続けたりする「対話能力」が欠かせません。「対話能力」を育成するため、小中学校では、Small Talkと呼ばれる活動が行われています。身近なトピックについて即興で話すSmall Talkの実践を分析した結果、児童・生徒同士で対話をした後、対話の続け方等コミュニケーション方略を指導し、その後もう一度同じトピックで対話をさせるのが効果的だとわかってきました。
- 評価についての研究：「対話能力」を評価するには、教師や面接者と話す「面接型」テストと学習者や受検者同士が話す「対話型」テストがあります（図1参照）。中級学習者以上の対話能力を評価するには「対話型」テストの方が妥当性が高いことがわかっています。しかし、初級学習者（英検準2級未満）の「対話能力」を「評価するには、どちらの形式のテストの方が妥当性が高いのかは明らかになっていません。そこで、初級学習者の「対話能力」を評価するには「面接型」テストと「対話型」テストのどちらが適切なのかを研究しています。

教師や面接者と話す「面接型」テスト

学習者や受検者同士が話す「対話型」テスト



図1. 対話能力を評価する2つのテストの型

研究者



川村 一代 (かわむら かずよ)
文学部コミュニケーション学科 准教授

